

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2017年12月18日発行 No.59

『彼らが王の言葉を聞いて出かけると、東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。学者たちはその星を見て喜びにあふれた。家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。』(マタイによる福音書 2:9~11)

<更なる盛り上がりを見せる高大連携に確かな希望が!! 八代学院クリスマス礼拝&祝会を挙行!!>

キリスト教学校で勤務していると、この時期には「まだ12月25日がないのに、何回目のクリスマス!?’という事がよくあるのですが、KIUもその例に漏れず、先週の大学クリスマスと神戸ドイツ学院を迎えてのキッズクリスマスに加えて、月曜日には高校のクリスマス礼拝(1年生に向けてメッセージを担当してきました)と水曜日には高校・大学の教職員を対象に「八代学院クリスマス」が、神戸のミカエル教会を会場に行われました!! 20年&30年の永年勤続表彰も重ねて行われるこの礼拝には、事前の申し込みより多くの方々が出席され(昨年の出席が60名、今年は77名!!感謝!!)、長年に亘る尊いご奉仕への心から感謝と喜びを共に分かち合う事ができました!! 受賞された皆様、本当におめでとうございます。また、これからもどうぞよろしくお願いいたします!!

更に特筆すべきは、礼拝の後に会場を下のホールに移して行われた祝会!! 附属高校の先生方が、司会進行から、ゲームや料理に至るまで念入りに準備を下されたお陰で、本当に美味しく楽しい時間を共に過ごす事ができました!! 重ねて感謝申し上げます!! 翌日、お話をしたある方が「あんなに楽しい会だったら、参加しないともったいないですね。来年はもっと友人を誘ってみんなで行きたいです…」と率直な感想を述べて下さり、準備を担当するチャペル委員の一人として、本当に嬉しく思いました。急激な少子化を迎え「私学の冬」と言われる時代を乗り切るには法人を挙げての協力が求められます。この小さな集いに大きな可能性を感じる事のできた、そんなクリスマスでした。



多くの出席者で賑わうミカエル教会



メッセージは八代学院長



永年勤続表彰も行われました!!



ピザにお寿司にしゃぶしゃぶまで!!



これが永年勤続30年の技!?お見事!!



趣向を凝らした「受賞の言葉」に爆笑

<先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています。

12月11日(月) テーマ:「星の光に導かれ」

野間 光顕(チャプレン)

先週末、神戸ルミナリエが開幕となった。阪神・淡路大震災後に「復興神戸に明かりを灯そう」という意図で始まった光の祭典。調べてみると京都や大阪など他の都市でもこのような「光」に関するイベントが行われている。このような電飾が世界同時多発的に起こるのはなぜだろうか? それは、「クリスマス」と「光」が切っても切り離せない繋がりの中にあるからだ。今日の聖句に出てくる東の博士たち、当時の最先端の学問に精通していた学者たちは、はるばるイエスを尋ねて旅をしてくる。それを支え導いたのが、星の「光」であり、それが今日のイルミネーションの元になっている。この時、その輝きを見つめながら、今一度、クリスマスの意味やメッセージに目を向けたい。

12月12日(火) ※この日は音楽礼拝、オルガニストの伊藤

純子先生の演奏に耳と心を傾けました。

今週火曜日は2017年最後の音楽礼拝!!

ぜひ覚えてご参加ください!!



12月13日(水) テーマ:「ボランティア」

石原 正彦(キリスト教センター主務)

今日の聖書箇所は、有名なたとえ話「善きサマリア人」だ。ここでは、神に仕えるはずの祭司やレビ人が傷ついた人を無視し、差別を受けていたサマリア人がその人を放っておけずに介抱している。イエスはこの物語を通して「人種・宗教を超えて『隣人』となる」事を説く。私はここに八代学院の建学の精神である「仕える」生き方、具体的に言うと「ボランティア」の精神を見出す。この世界には様々な形のボランティアがある。被災支援、物資を送る援助、高齢者の介護や障がい者支援等々、身近な所では礼拝のサーバーや聖歌隊もそうだ。先日のクリスマス礼拝後の祝会では、日本文化部が手作りのお菓子を振舞っていた。このような働きに大小や貴賤はない。自分のできる事に取り組もう。

12月14日(木) テーマ:「旅は人生の教科書」

前田 武彦(経済学部)

観光学が専門の私は、国内の全都道府県、また外国でも40ヶ国近くを旅してきた。とにかくお金をかけずに各駅停車で向かったり、飛行機であれば3時間ほどの台湾に貨物船に乗ったり…。ブルネイでは国王の宮殿を改造した超豪華ホテルに泊まったかと思うと、キルギスでは遊牧民族と一緒にテントで宿泊したり…。旅は、人に多くの事を教えてくれる。また、人は旅で学んだ事を一生忘れない。特に伝えたい事が2つある。1つ目は「人は知らない経験を通して『当たり前』と思われる事の中から『幸せ』を見出す」事ができる。また「一人旅であっても、人は旅を通して『コミュニケーション』の大切さ、怖さに気付かされる。」という事。旅を通して世界の繋がりを感じる経験を大切にしたい。

12月15日(金) テーマ:「サンタさんの原点」

野間 光顕(チャプレン)

クリスマスが近づくと、父の言葉を思い出す。小学生の頃、プレゼントを貰って喜んでいたら「聖書には『受けるより与える方が幸いだ』と書いてある。本当に嬉しいのは貰う方ではなく、贈る方だ。サンタさんは、その喜びを知るからこそ子供たちにプレゼントを贈るんだ…。」と言われた。この父の不思議な言葉は、約30年経った今、ようやく意味を持つようになった。キリスト教はその伝統の中で「献金」を大切にしてきた。集めたお金を自分のために使わず、相手のために捧げる。その繋がりによって共に支え合いながら今日まで歩みを続けてきた。今の日本、いや世界が抱えている問題は、この「受けるより与える方が幸い」という真理を見失った所から生まれているのではないだろうか? 10日後に迎えるクリスマス。独占ではなく、分かち合う喜びを経験したい。(文責:野間 光顕)